

## 台湾大學共同ゼミ概要

台湾大学とのジョイント教育は、台北にある台湾大学を会場として9月19日から21日まで3日間にわたって実施された。台湾大学では新学期開始の時期にあたり、大学院生7名、他に10名程の学生が部分的に参加した。諸先生方は御多忙の中、やりくりして各発表に2、3人ずつ参加していただいた。お茶の水女子大学からは市古夏生・大塚常樹両教授と6名の大学院生が参加した。ゼミの発表テーマはいちおう「文学における日本的表象」とし、時代は近世及び近現代に設定したが、台湾大学の院生には、言語学的研究や文化的な研究なども含めていいこととした。使用言語は日本語とし、発表原稿を配布資料とすることを原則とし、通常の資料配布の場合でも、理解しやすい形式とするようにした。

大学院生が両大学とも6名ずつ、計12名の発表が行われ、それぞれが聞き応えのある内容であった。質疑応答もなされたが、台湾大学の院生が不慣れであったことと、日本文学を対象とする発表のせい、日本人の研究に対して質問することを躊躇っているように見えた。司会を教員が務めたことなどを含めて、もう少し工夫する必要があると思われる。

そうした反省事項はあるにせよ、相互に研究内容を理解しあえたこと、19日のゼミ終了後に台湾大学の御厚意のもと、教室で軽食をとりながら懇談をし、国際交流を果たしたことは、ジョイント教育の大きな成果であり、成功裡に終了した。ご協力いただいた台湾大学の主任趙順文先生、お茶の水女子大学のOGである趙姫玉先生、范淑文先生、その他の諸先生方に感謝申し上げる次第です。

なお、市古教授は1日目に17世紀の出版文化事情について、大塚教授は2日目に宮沢賢治と草野心平の詩に関して講演を行った。

9月18日(月) お茶の水女子大学の8名が出発し、午後に台湾台北市に到着。宿舎にて台湾大学の趙主任等と打ち合わせを行う。

9月19日(火) 台湾大学にてゼミ。9時30分より趙主任及び市古の挨拶。その後、市古の講演と1名30分のゼミ発表。

- ①渡邊さやか(国際日本学専攻1年) 『本朝水滸伝』試論
- ②李欣倫(台湾大学院生) 『吉備津の釜』における賢妻から怨霊への変貌
- ③山名順子(国際日本学専攻3年) 江戸時代における金魚と小説
- ④林科成(台湾大学院生) 空間概念の「手」について
- ⑤保科綾香(言語文化専攻1年) 太宰治の桃太郎(『御伽草紙』)
- ⑥鄭舜瓏(台湾大学院生) 「狼疾記」における新たな解釈

この後、懇談会を催し台湾大学学生との交流をはかる。

9月20日(水) 台湾大学にてゼミ。9時30分より大塚の講演とゼミ発表。

- ①菅原真以子(国際日本学専攻2年) 中上健次「修験」にみる熊野表象とその利用
- ②陳羿秀(台湾大学院生) 日中両国における遊里生活の比較について
- ③村木佐和子(国際日本学専攻2年) 三島由紀夫『金閣寺』
- ④劉宛琦(台湾大学院生) 近代文学における〈変身〉—太宰の『魚服記』

ゼミ終了後、台北市内の道教寺院を見学し、宗教に関わる民俗を実見する。

9月21日(木) 台湾大学

- ①藤川玲満(国際日本学専攻3年) 東海道の名所案内記について
- ②池田晶子(台湾大学院生) まどみちお—その人と作品の特徴
- ③総括

ゼミ終了後、故宮博物館で中国の文物を見学。夕刻、台湾大学図書館に入館、その後に台湾大学の教員5名とお茶の水女子大学教員と学生8名とが会食し、先生方との交流をはかる。

9月22日（金）

帰国。

なお、都合により、講演した市古及び大塚の要旨を先に掲げ、次に台湾大学大学院生のゼミ発表要旨を発表順に載せた。最後にお茶の水女子大学大学院生のゼミ発表を載せ、その後に、参加者の感想を一言ずつ記載した。